

() 実践研究の内容

学力の評価を生かした指導の改善 ~ 指導と評価の一体化を目指して ~

1 評価計画の明示

(1) 評価規準・評価方法の作成

評価規準を作成し、身に付けるべき基礎基本を習得した姿を「おおむね満足できる・B」とし、更に質的な高まりや深まりを持っている姿をAとする。Bに到達していないと評価した子どもたちに対しては具体的な手だてを講じる。また、それぞれの評価の観点や場面に適した評価方法を決め出す。

(2) 指導と評価の計画を盛り込んだ単元展開の作成

評価する場面を具体的にして、単元展開に確実に位置付ける。

5年「面積」の単元展開(全14時間のうち5時までを抜粋)

関：関心・意欲・態度 考：数学的な考え方 表：表現・処理 知：知識・理解

	1	2	3	4	5
じ っ く り コ ト ス オ リ	ブ 通が既 しわ習 をか もっ図 つて形 いを な想 い起	平行四辺形と長方形を比べて、どちらが広いかを考えることを通して、平行四辺形の面積を求める公式を考える。 関：既習の考え方をを使って平行四辺形の面積を意欲的に求めようとする。 考：色々な面積の求め方をもとに、平行四辺形の面積を求める公式を考えることができる。		色々な平行四辺形の底辺と高さを見つかる。 知：平行四辺形の底辺や高さを見つかることができる。	色々な平行四辺形の面積を求める。 表(ミニテスト)
ゆ っ く り 	エ 図し 形 の面 求積	自分なりの方法で平行四辺形の面積を求め、その公式を考える。 関、考		色々な平行四辺形の面積を求める。 表：平行四辺形の底辺と高さを、公式を使って面積を求めることができる。(ミニテスト)	自分なりの方法で三角形の面積を求め、その公式を考える。 関、考
ぐ ん ヨ ぐ ん	シ 積の 法求 のめ 見方	自分なりの方法で平行四辺形の面積を求めその公式を考えるとともに、色々な平行四辺形の面積を公式を使って求める。 関、考、表(ミニテスト)		自分なりの方法で三角形の面積を求め、その公式を考える。 関：既習の考え方をを使って三角形の面積を意欲的に求めようとする。 考：色々な求め方をもとに、三角形の面積を求める公式を考えることができる。	

(3) 単元末における、各観点の評価項目の扱いの検討

算数の少人数学習では、毎時間それぞれの評価規準に従って評価し、単元テストを行って評価する。単元末には各セクションの観点毎のA・B・Cをそれぞれ3点・2点・1点に換算し、範疇を決めておき合計得点によって、A・B・Cとして総括する。単元の終末でC評価の項目がある子どもたちには、個別に補充指導を行い学力の定着を図る。他教科での扱いについては今後検討していく。

2 評価場面の的確な位置付け

(1) 評価項目の絞り込み

日常的に評価が行えるよう授業中の評価項目をできるだけ絞り込み、原則的には一項目とする。

(2) 個の伸びを見定める補助簿や座席表の活用

算数の少人数学習では、補助簿や座席表を活用して、評価を累積している。

5年「面積」ぐんぐんコースの補助簿

関：関心・意欲・態度 考：数学的な考え方 表：表現・処理 知：知識・理解

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	テスト結果			単元末最終評価						
観点	フレ テスト	関	考	表	関	考	表	表	知	関	考	関	知	考	考	表	知	関	考	表	知	
1 浅間太郎	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	B	A	B	A	A	A	A	A	A	A	A

3 評価を指導に生かす

(1) 追究途上での評価を基に、具体的な手だてを講じる

子どもたちの多様な反応に対応できるようにして授業に臨む。

子どもたちが自らあゆみを振り返ることができる「ふりかえりコーナー」を設け、終末の自己評価コーナーをも併記した学習カードを工夫し、この学習カードから即指導・助言を行う。

(2) 個の追究を全体に位置付ける

個の評価を基に、子どもたちの追究を全体の場を広げ位置付ける。

(3) 教師の指導に対する評価を得る

子どもたち・保護者・教師間での評価をアンケート等より求め、指導の改善に生かす。

保護者の声

少人数学習、私はとてもよいと感じました。人数が多ければ全員に必ず目を通すということができにくいと思いますし、その子その子の進む様子が先生にもはっきり分かることは、学習する上で一番大切なことだと思うからです。これからも一番よい形で学習できるようによろしくお願いいたします。

() 成果と課題

1 成果

(1) 算数の少人数学習では、評価規準・評価方法を作成して授業を行ったことで、評価の観点がしっかりし、教師が指導の過程や方法を見直し、お互いの情報交換を通して、効果的な指導を行おうとする姿勢作りにつながった。

2 課題

(1) 算数の少人数学習の成果を基に他教科においても評価を位置付けていく。その際、評価にとらわれすぎて授業の流れが止まらぬように授業の充実を図ることを第一に考えて、無理なく継続していける補助簿や座席表の付け方を工夫していきたい。また、補助簿に関しては可能な限り授業中と授業後に記録し、単元末に整理していく方向で取り組んでみたい。尚、子どもの自己評価を大事に考え、テスト結果も参考にして、各観点の評価項目の扱いを決め出していきたい。

() 成果の普及方策

(1) 研究会・説明会等の開催

県内でのフロンティアスクール事業中間発表会の開催

県外の教員による視察団に、算数コース別学習授業参観と説明会の提供

(2) HP作成

今年度の実践研究を、新年度に向けて掲載していく。